夕刊 磐城新聞
七月十七日發行
〔日曜祭日翌日休刊〕

黒つぐみ
下
石橋柴子

何と云ふ美しい啼音の鳥であらう、私は我を忘れて其の聲に聞き惚れた

鳥は啼く事に飽きると前よりも一層のしぢまを殘して木立の奥に姿を消して行つた

私は途々經驗のある少數の小鳥を次々に腦裡に浮べて見たが其の鳥の名はつひ知ることが出來なかつた

翌日銀行に出勤した私は昨日の鳥に就いて經驗した事柄を出來得る限り詳しく說明して其の名を尋ねてみたが誰も、丁度外國人でも眺める樣に、其の底に好奇心と、憐愍と、ごく少しの侮蔑を漂はせた目付をして私を眺めた丈である。只小使の藤田さんのみが『黒つぐみだと思ふがなし、おら家にゃ其れと似た鳥が居るからなし、一度來て見らんしよ』と云つて呉れた

其の後あの朝の氣分を忘れ得ず二度、三度早朝の公園に啼を尋ねて心ゆくばかりメロディに耳をかたむけてゐたが、其の間にも、私の其の鳥の正體を見とゞけたい念願はつのる一方であつた。そして、藤田さんを訪うたのは葉櫻も其の色が濃くし、セルの肩を吹く風にも初夏の感觸の感せられる頃であつた

やはり私の見たのは黒つぐみであつた。藤田さんの飼育して居る黒つぐみは五年にもなるとかで非常に馴れては居たが、其の啼音は私の經驗した野生のものよりは、はるかに劣つて居る樣に思はれた。藤田さんは只好きと云ふ丈けで鳥の習性に就ては詳しくは知らなかつた。併しあまり熱心な私の態度にすつかり共鳴して遂に私が茨城縣に歸る時（黒つぐみは保護鳥であり福島縣は茨城縣に比し保護鳥飼育の手續きが面倒な爲）に此の鳥を呉れる事を約束した

併し此の約束は遂に果されなかつた。なんとなれば私が平に轉任して幾日も經ぬ中に彼は老衰病の爲に勤めをやめて新潟の故郷に歸つたと云ふ事を聞かされた

そしてあの鳥は何處にやられたか誰も知らないと云ふ

私は今以つてあの鳥に心を惹れて居る

甘い香りの淡紅色の雰圍氣の中の黒い鳥、そして其れが歌ふ妙なるメロデー

置時計
鈴村遜

カタコト／＼置時計
僕が學校に行つたあと
一人ぼつちでさみしかろ
それでもカタコト／＼鳴つてゐる

カタコト／＼置時計
僕がオヤツのその時も
一人ぼつちで机の上
カタコト／＼なつてゐる

カタコト／＼置時計
僕が寢んだその後も
一人ぼつちでさみしかろ
それでもカタコトなつてゐる

小名川附近
大木實

流れるともなく水は流れ
とまり船にこゞんで米とぐ婦(をんな)がゐる
ゆふぎりはいちめんに川端の灯をつけ
暮れのこつたガスタンクふたつしよんしてゐる
寂しくなつてしまつた裏通り
馬糞が乾いて落ちてゐたりする
商ひやもなくなり
兩側の家々の灯も暗い

句帳から

漸くに畦塗る里や半夏生　眠螢
騎手の妻祈る樹影や觀世音　信陽
睡蓮を搖すりて鯉や雨上り
托兒所參觀
いぢらしや兒等の戲れゐる青葉陰
新綠の家の人形供養かな　氷心子
靑蛙つと八つ手葉に飛び乘れる
實山椒の香高々と梅雨晴るゝ

七月題詠

一、青　一、蟬
歌數隨意
締切七月二十五日

童話 魔物を食べた木馬 二
阿部賴俊

『そうさ、お父さんの作るお馬はね、それは／＼もつと綺麗で利ちやんをのつけて走るお馬にきまつてるよ！』

二人の兄妹は大喜びで、木馬の出來るのを誰よりも樂しみにして待つてゐたのです。

やがて一ケ月經ちましたが、木馬のモクの字を聞かないどころか、肝腎のお父さんのお顔は一日々々と蒼くなつてゆくばかり

『お兄ちやん、木馬ちやんはまだ生れないのね、お父さんはどうしたんでせう』

『名人つて言はれるお父さんだから、一寸でも變なものは作らないんだよ、木馬なんか死んだあとまで殘るものだから、お父さんは立派な恥にならない木馬を作るつもりなの。それにしても困つたな、おやツ、又お城からお使ひが來たよ』

『御免よ、あゝ太郎かい、どうだ木馬は出來たかい』

『なに、まだ出來ない。困つたな、ではお父さんを呼んで來なさい』

『これは御苦勞樣で御座います。何しろ一生一代の木馬を作らうと思ひますので何卒一月丈けお待ち下さいませ』

『それには違ひあるまいな！』

『きつと命に懸けてお誓ひします』

『宜しい、では一月丈けまつが、それで出來ない時はお前の命を貰ふからな』

使ひが出て行くと、お父さんは默つて仕事場にお入りになつたが、夕方になつても、夜になつても物音一つしない。心配になつた太郎さん

『變だな、どうかしたのかな、お父さん』

と叫んでも、シーンと更けた山の中、只太郎さんの叫び聲丈け

7月18日

△水戸光圀朱舜水を江戸屋敷に招く（寛文五）△世界最初の顯微鏡學者ロバート・フック生る（一、六三五）△英リヴアプールのマーシ河底地下道開通（一、九三四）

小說 高橋是清 (68)
松浦泉三郎作　佐々木今朝吾畫
森有禮（三）

日比谷見附の仙臺屋敷を訪れると、和喜次等二人をちろりと斜眼下見ながら、公用人が、敵意を含んだ表情で森に對座し

『田中と申す。御來意は…？』

と、訊いた

『既に御賢察と心得ますが！』

森は微笑を浮べて

『後藤常をお引渡し願ひたい』

言つて、對手を直視した

『何かと思へば……』

田中も皮肉に微笑をちらと浮べて

『その事で御座るか。ならば遺憾ながら貴意に添ひ兼ねます』

『いかんと仰せになりますか？』

『お斷り申す』

『何故いけません？』

『失禮ながら貴殿の御抗議ちと筋ちがひかと心得へます。彼は當藩に藩籍を有する者、それを不都合の廉あつて、當藩の手で捕へたまでの事、御抗議を受ける覺えは御座らぬ』

『ならばお質ねしますが、後藤に不都合の廉とは？』

『彼は當藩の藩是を破る者……』

『さらばその藩是とは？立入つた事ながら伺ひたいと思ひます』

『紅毛の學に心醉して本朝古來の美風を破壞する者は窮命の上改心を促し、聞かずば成敗致すが藩の方針……』

そして口許に冷笑を浮べながら

『勤王は薩長ばかりの方針では御座らぬ。世間が如何やうに見やうとも、皇室への忠節は當藩とても他に劣らぬ心算……』

『暫らく……』

森は手を擧げて

『御話では、後藤の逮捕は皇室への忠義の爲……つまるところはかう解して差支へありませぬな』

『御解釋は御自由で御座る！』

『紅毛の學は國の美風を破壞するものと仰せられましたな？』

『如何にも！』

『異な事を承はりますな』

森は上目使ひに田中を見て

『その論法でゆきますと、朝廷は國の美風の破壞者養成を志してゐるかに思れますな』

『奇矯の言をお愼しみありたい』

田中は鋭く言つた

『なか／＼。さらばお質ねしますが、大學は國のものその大學で英學を敎へしめてゐますが、これは如何でせうな？』

『それとこれとは別で御座らう』

『成程。然らば別として申上ても宜敷いが、國家の大學に敎鞭を執る後藤は、朝廷の役人だと言ふ事はお認めござりませうな？』

『う』

『お認めでござりませうな？後藤は大學南校の敎官、貴藩の出身者としてだけで其の身の自由を拘束して宜敷いでせうか？』

『……』

『忠義の爲とのお言葉ですが、國家が人材を養ふ爲の大學の敎鞭を執る役人を、貴藩の一存で窮命せしむるとなれば、例へ三日でも十日でも、貴藩はそれが爲に國家の機關を阻害する事になりは致しませぬか？』

『……』

『とすると、それが忠義とはちと受取り兼ねますな、若し後藤に不都合ありとせば、これを裁く爲には、國家定めた刑法もある筈と心得へますが……』

突然田中が顔を擧げて

『御引取下さい。お渡し申す』

と、言つた

森の背後で、二人、顔を見合せて微笑した。森は立上つた田中を呼び止めて

『暫く、今後の事もあり、御無心序に、今日三人の者は、森が當藩より申受けたいと存じます。この議も御承引が願ひたいのですが』

田中は無言で頷いた

三人はその日から、鹿兒島縣士族森有禮附籍、となつた

株ハ一株ヨリ、債劵ハ一枚カラ賣買致シマス。
友部株式店
平町三丁目　電話一七七番

三井タクシ
電話六八五番

廣告

ダイナモ
バッテリー
マグネット
電氣ドリル
船舶用發電機
日本瓦斯工業株式會社
瓦斯發製機代理店
平町紺屋町
久野電機
電話七二一番

天下一品マヅイ
素人料理
おでん 榮ちゃん
酒にやき鳥
冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

夏の三原山へ
觀光團體募集
◇期日　八月一、二兩日
◇會費　御一名十圓
（但し東京解散までの汽車、汽船、自動車、食事その他一切の費用を含む）
◇募集人員　一〇〇名
◇コース
一日午後二時十分平驛發、仝六時五十七分上野驛着、自動車で靈岸島へ—仝十時乘船廿發
二日午前四時大島元村着、旅館で朝食後希望に依りAB二班に分離（A、B兩班共午前六時元村發徒歩で登山、山頂噴火口觀察後A班は間伏へ下山それより自動車で波浮港へ……波浮港より元村へ歸着、B班は火口より動物園へ下山、自動車で元村歸着）更に自動車で觀光ホテル着晝食、三時乘船、同七時卅分東京着解散
（詳細は電話六一二番へ御照會下さい）
昭和十一年六月
主催　福島民報平支局
福島縣平町田町五十番地
（電話六一二番）

●防水完備の雨具は專門店
雨の日の活躍は敷島の雨具で
絶對防水を誇る！
作業用モヂリ
強ゴムマント
各種雨覆シート、レーンハット（防水帽）
自轉車用前掛、其他雨具一切
防水布製品專門製作
敷島テント店
平・六丁目

國はニッポン・魚は凍魚
日本水産特約
卸小賣 平製氷會社
電二二八・三三六番
鯛　銀鯛　北寄貝
エビ　甘鯛　帆立貝
白魚　甲イカ　目拔切身
ワカサギ　鰹　うに貝燒
ヒノマル凍魚
平代理店　四丁目
卜印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

賣家ハ静岡産地ノ茶問屋
製産家カラ直接需用家へ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣 大角園
平町搔槌小路

耳鼻咽喉科專門
病室完備
自炊ノ便アリ
平町田町（電六九一）
山内醫院
醫學士 山内亨吉

御挨拶
酷暑を迎へます折柄謹みて皆々樣の御健康を御祈り申上げます。
扨て私儀水野化粧院を開設致しましてから恰度今年で七周年を迎へました。
微力の私共では到底迎へ得ざる永い歳月で御座いますが、これ偏に皆樣の御引立によるたまものと厚く御禮の言葉を申述べる次第で御座います。
今度これが記念に、皆々樣への一層の御努めのためにオゾン理容器一台を備へつけました。
この理容器具は近代美容術の機械化で御座いまして御使用後の御滿足は決して申迄もない事と固く御誓ひ致す次第で御座います。是非一度御試しあられます事をお願ひ致しますと共に七周年を迎へるに當り御贔負の皆々樣方に御挨拶申上げる次第で御座います。
昭和十一年七月
平驛前
水野化粧院
主 水野冬子
電話　營業所 平驛前 六七八番
　　　自宅 四軒町水野商店 五二五番
御得意の皆樣方に

銅器・竹製器・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町二丁目
和久井屋
電話四〇五番

日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
（委細面談）

美味デ滋養分豊富ナ
にんべん！
新鰹魚節ガ出來マシタ。
イ宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

ウワッハッハッハー
生の旨さを知らずにビールを語るなんて？
例年の通り生ビール賣出し
キリンビール仙臺工塲直送
……（毎日午後三時着荷）……
洋食は
平會館

大人氣の東北振興株 超特好成績で募集終る

七十七平支店扱 八千五百餘

東北振興兩會社の株募集は今十七日迄の筈であつたが、各方面とも雪崩れの如き申込みに夙に滿株の形勢に鑑み締切期日を一日間繰上げる樣昨十六日東京の創立事務所から電報あつたので地方の取扱店たる七十七銀行平支店でも同日を以て締切つたが、結局興業四千百十、電力四千四百二十五、計八千五百二十五株の驚異的數字に上り、遙かに六千の郡山五千の若松を凌ぎ二萬の興銀福島支店に次ぐ好成績を示した、尚申し込みの書狀は引き續き入つてあるが、昨〆切り以後の分は遺憾乍ら受理せぬことになつた。斯くの如き物凄い申込みの殺到振りは少くとも其間漫ろに地方に於ける財力の彈力性を物語るものと觀る事が出來る

資金飽和時代

大量申込みを整理 本縣割當て二十萬株に對する超過株の處置は兩會社設立事務所に於て整理し大量的の申込みを減少整理し少數の應募をそのまゝにする方針であるといふ

第四通學道路協議

第四小學校通學道路開設に關する委員會は二十日午後一時から開く

自給肥料の實行委員增員 山田村意氣込む

山田村農事實行組合長會議は昨十六日午後一時から村役場で開き實行督勵員增員附近の小麥菜種販賣統制、自給肥料實行委員增員(六名を四十名に)を協議した

。。。。。菜種檢收不良 山田村下山田坂本德一氏耕作の菜種栽培指導地の檢收は昨十六日行つたが成績は一般に昨年より劣つてゐた

上小川林道改修着工

遲くも九月頃に竣功か

上小川村上小川字諸島地內約二里に亘る林道は晩近木材等も盛んに搬出されて來たにも拘らず狹隘のため車馬の交通のみで過般來地元から改修方を叫ばれてゐたが愈よ平營林署の手により工費五千餘圓で此程着工、トラックも自由に通れるやうになる、新道は遲くも九月頃には竣功すると

平署 土用稽古 一般の參加歡迎

平署の土用稽古は來る二十日から十日間每日午後三時から五時迄行ふが一般の參加も歡迎すると

眞犯人の檢擧により 植田(營林)署長さん朗か

昨夜の雪冤會賑ふ

植田營林署の小切手拔取事件でとやかく騷がれてゐた丹羽同署長は眞犯人の檢擧によつて愈よその眞相が判明したので同地方官公衙關係學校長等より成る『五日會』が主催し昨十六日午後五時から同町旗亭みどりに於てこれが雪冤會を催したが出席三十餘名に上つた

遺骨四基通過

今般滿洲で名譽の戰死を遂げた遺骨四基(相馬郡八澤村出身步兵伍長由田男君外三基)は十九日平驛發午後一時五十八分で通過郷里に向ふ

高萩君の美擧

箕輪村高萩盛(三)君は本年二月から六月までの小遣を貯蓄した金二圓を國防費として十六日福島聯隊區司令部に獻金を申出た

。。。。。。磐崎災害改修陳情 磐崎村岩ケ岡と西郷地內藤原川にかゝる木橋並に堤防は今次の豪雨で欠潰したので區長、村議等が今十七日平土木監督所にこれが改修方を陳情した

給水量二萬二千石 きのふ遂に最高記錄

日每に彈む計量器

暑い〳〵、いま迄ろくに照り出さなかつただけ、きのふからやつて來た本格的暑熱にはみんなヘコタレてゐる、こうなると平町三萬町民の『命の綱』である八幡小路貯水池の計量器もグン〳〵上昇してきのふは遂に今年最高の記錄を作りその給水量〆て二萬二千石

去月中の一日平均が一萬五千二百三十石だつたからグーンと六千七百七十石もはづんだわけだ

昨年の最高は七月二十三日の二萬四千六百石で尙六日も早いのに今年はこの記錄を作つてゐるんだからこの分で行くと昨年のレコードを遙かに突破するんではないかと云はれてゐる

九十四度弱 農家と氷屋喜ぶ

驚くべき急テンポで眞夏へ入つた昨十六日の氣溫は普通なら涼風の立つ夕方へ入つても一向降らず氷屋の賑ひは深更迄續き、大ていの家では略ね雨戶を開け放して就寢した程であるが今日も朝來釜中に蒸さるる暑熱でお蔭で各農家は最早完全に凶作線を突破し喜びに朗かな農村風景を現出し町內を流し步く移動アイス屋とダイヤネオンが輕快に廻る氷水屋の店頭に夏景氣が氾濫してる、午後一時氣溫まさに九十三度七

體操講習會 けふから第一で

郡第三區の體操講習會は今十七日より三日間每日午後一時より五時迄平第一校に區內各校から百餘名參集先頃文部省で受講した同校鈴木武夫訓導から體操科新要目を中心に受講

。。。。。。平小學校同窓會 平小學校同窓會(第一校)の今年度例會は來る二十日午後一時から母校講堂に開き卒業生市井辯護士の通俗講演、弟子丸一座の手品その他あると

子供の水泳ぎ御用心 水魔の犧牲相次ぐ

また水魔の犧牲——豐間村沼の內惣一次女小野岩子(八)ちやんは十六日午後二時頃同村辨天川で水遊び中誤つて深みに入り溺死した、子供持つ親御さんは御用心の事

卒倒した爺さんの懷から飛んだ猪九枚

……だが六枚あつて一と安心

悲 **喜** **劇**

暑熱のスリル——磐崎村藤原の米屋さん、野木吉藏(五六)さんはきのふ午後四時頃內郵局から拂戾した九十圓を懷ろに同村宮川端にさしかゝつた際突如霍亂を起して卒倒、意識を失つたが間もなく氣づいて見ると懷ろの紙幣が九枚もなくなつて居るので盜まれたか川へ流されたかと早速附近の小學兒童を狩り集め十圓札一枚に二圓の懸賞附で川下を搜させた處內六枚は遙か川下を流れてゐるのを發見した、野木さんも『あとの三枚は川下の奴が拾ひ上げて夢のやうに喜んでゐますべエ、それでもこれだけ見つかつて助かりやしたよ』と大喜び、一方體金の二圓で思はぬ小遣にありついた小學生六名もこれ亦ニコ〳〵だつたと云ふ

東京で一と稼ぎ

急所狙ひ犯人の餘罪

既報—急所狙ひ犯人伊達郡梁川町生れ宍戶一(三)は平署で取調べの結果同人は去月二十九日東京市日暮里區日暮里町古物商幡野商店方を訪れ銅線を持つて來るから買つてくれと內金二十圓を騙取して郡內に流れ込み公園、新川端等に野宿してゐたが十四日午前二時頃平鐵道購買部主任鈴木三五郎方から四斗樽十本(價格五圓)同町三丁目二八ガソリン商店橫山萬藏方からドラムカン一個(價格三圓)を竊取、これを材木町古物商安田淺吉に二圓で賣り飛ばした事判明した

若アユの誘惑!

解禁日を待ちきれず 密漁した青年坑夫

內郷村藤棚茂次次男炭礦坑夫鈴川勝吉(三〇)假名—は去月二十七日所用のため好間村中好間に行き同村好間川に銀鱗をひらめかしてゐる若鮎の泳ぐのを見て根が大好きな丈け解禁日を待ちきれず翌二十八日午前三時頃から起き出してコッソリ十七匹を密漁自宅に歸つてうまい味を占めた事が此程平署に探知され十六日檢擧されてしまつた、今年最初に擧げられた鮎の密漁である

神樣を中心の紛糾解決

木戶の小作騷ぎ落着

雙葉郡木戶村山田岡字羽黑山村社出羽神社々掌井出義信(六三)翁が山田岡靑年分團長渡邊寶氏を相手取り平支部に提起した小作料値上、小作地一部返還訴訟は同じ小作關係の氏子民も介在し老神主を中心に成行きを注目されてゐたが昨十六日中島裁判長係り調停會を開き同社の氏子たる村長、助役靑年團長等が極力斡旋した結果、田植を濟ました今年及び明年一杯は從然通り山田岡側が全部を耕作し明後十三年より請求通り山田岡側も二反步を耕作することになつた

若松消防幹部視察

植田支局通信

若松消防組幹部十餘名の一行は十五日正午小名濱魚市場築港等を視察し午後二時半植田町に至り坂本植田、山崎錦兩組頭以下幹部數名出迎へ入絹工場及勿來の關址を視察午後四時半地元消防組の歡迎會に臨み平町へ向つた

牛乳販賣利用組合

昨日植田町で協議

植田牛乳販賣利用組合設立委員會は十五日午前九時より植田町繭市場に於て開催植田町大野竹春、渡邊村高木善枝の兩氏委員長の下に乳牛所有の農家と牛乳營業者とによつて組合を組織し良質の牛乳を安價に販賣する事を申し合せた

銷夏篇 (2)

眞夜牛に雫の音 裏板に潛む怪

實際あつた獵奇話

根が目の中へ入れても疼くない程可愛い倅丈けに愈々家出ときまつて見れば、些か効き過ぎた叱言を夫婦共々後悔したが、心當りを隅無く尋ね廻つても更に行方が解らず、便りは梨子の礫であつた

『金遣ひは荒いたつて大体が正直もので中々親思ひな處があるのに、手めえがガミ〳〵云ひやがつたから此のざまだ。大事な他の位牌持ちをどうして吳れるつ』と螺の樣な鐵拳が飛んだ

突然のアッパー!カットを喰らつて倒れん許りに蹌踉めき乍らも其儘屛息する山の神では無かつた。髮振り亂した積怒の形相物凄く亭主目覚けて武者振りつき乍ら齒をきり〳〵食ひしばつて

『うぬが若けえ時の事を棚へ上げて一寸した夜遊びに途てつもねえでけぇ聲なんか出しやがつたからだ。さつさと搜してこう』邊り近所の隅々迄聞こわる樣に喚いた

倅が家出した二晩目、若しや親の叱言に思ひ詰めて無分別な事でもして吳れなけりや良いが……などと考へ始めると不吉な豫感が其れからそれへと擴がつて容易に寢つかれない。氣まづい思ひの夫婦はお互無言のまゝ終夜輾轉反側して眠れなかつた、それに裏板の鼠がガサコソと常以上に五月蠅かつた

雞が鳴いてそろ〳〵天が白み初める頃、疲れが出てついウト〳〵すると、タラッ、タラッと裏板から夫婦の枕もとへ雫がたれた。曉近くの靜寂に滅入りそうな雫の音は決して氣味の良いものではなかつたが其のうち雫は沛然と量を增して疊へ雨下した

それはドラ息子が甘い親達を困らせに家出と見せかけて天井裏に潛み、チッと怺えて居た小便がつい我慢し切れなくなつての始末と判明した

滯空?二日。天井裏で散々自分を中心としたサッカリン程に甘い兩親の喧嘩を聞いたドラ倅がその後什麽氣持ちになつたかは惜い哉聞き洩らしたが、これは何年か前に湯本邊にあつた掛け値の無い實話だから愉快ではないか

修繕物を入質した 狡い洋服屋 懲役八月

けふ平區で求刑さる

修繕を依頼され預つた洋服を入質費消した平町南町洋服裁縫業渡邊清二(二九)に係る竊盜橫領事件は今十七日午前十時平區野木判事、氏家檢事係り開廷、遊興に費消しながら飽くまで生活に窮しての犯行と申立て懲役八月を求刑された

。。家出 栃木縣那須郡那須村大島房次實父房吉(六〇)爺は去る八年九月頃家出、其後炭燒き等をやつてゐたが最近郡內炭礦に入り込んだらしいから搜して欲しいと十日房次から平署へ

天氣豫報 小名濱測候所觀測

今晚も、明日も南の風 晴

お披露目

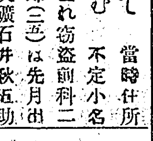
橘家から寒暖計をヅット上げさせる樣な名前の『照千代』が現はれた、三百度ハ高熱ゝ嬉しいがこれ以上照千代では——と暑つがりが怖れをなしてゐるとはまさか

十八日(小名濱測候所發表)

日出 四、三四 月出前 三、五三
日沒 六、五二 月沒後 六、二七
滿潮 前 二、〇五 後 五、〇五
干潮 前 九、四五 後 九、五五

出所して直ぐ盜む

當時住所不定小名濱町字後場生れ竊盜前科二犯村崎正太郎(三五)は先月出所早々勿來炭礦石井秋五助方から衣類數點と現金卅圓を、同井關岩太郎方から洋服その他衣類十數點を何れも竊取し十六日植田町を徘徊中その筋に取押へられ目下餘罪を嚴重取調中である



舊五月三十日 士 辛丑 佛滅 破 柳宿 新七月十八日

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 小利に甘んじ奮發心に乏し相談事は吉▲二黑 平運にして分外の希望を起されば宜し▲三碧 小成に安んずべし文書につきて喜あり▲四綠 物事捗らぬとも反復努力する時は終に成る▲五黃 知らず識らずに深味に入り込み無理する日▲六白 物事にかたよらず正道を進む時は通達す▲七赤 總て目上に謀りて我意をほしいまゝにせざれば吉し▲八白 進展發達は望み難し無事平和を念とすべし▲九紫 待てば海路の日和よく順風にほを揚る如し

植田の新名所

鮫川川口に位置し四季の風光に富み眼下に太平洋を見晴し、白砂に綠の松林は實に天下の絕勝地の定評あり又海水浴として最も便宜安全の位置にある兩者相揃ふた鴨の湯鑛泉へ!

常磐線植田驛下車

……鴨の湯鑛泉 海水浴旅館……

臨海館

植田町より十餘丁(自動車ノ便アリ)

鮫川橋より當館迄は(モーター舟)の連絡貸ボートあります

洋食 喫茶 宴會 コンパル 平町 電話666

廣告 御座います。每度有難う

磐城名物 靈峰羊羹 小川鄕驛前 平屋賣店

例年の通り やな川鍋を始めました。
御一人前 金二十五錢
御二人前 金四十五錢
出前は迅速に御用便を勉めます。
其他御料理は御望に依り調理致します。
植田町 石川亭 電話四十三番

自轉車・リヤカー 品質本位と正直な値段 フタバ商會 平・新川町郵便局前 谷屋吳服店トナリ